

3 2つどいアピール

<今年のつどい>

2011年3月11日、日本史上最大規模の震災といわれる東日本大震災が起きました。32つどいは始動していましたが、第2回実行委員会は5月に延期となり、またつどいの開催自体の是非を問う議論がありました。

様々な意見が交わされる中、今回の震災からより多くのことを学び、議論し、それをこれからの将来に還元していくことが医学生として今できることであり、長期的な支援ともなりうるのではないかという結論に達しました。よって、32つどいを「震災と復興」をテーマに行なうことに決定しました。

<つどいの3日間>

1 日目は坂総合病院の佐々木隆徳先生による現地の災害医療についての学習講演とシンポジウムが行なわれました。災害時の現地の様子や災害時に起こってくる数々の問題を知り、さらにそれらの問題の多くは日常的にあるもので、災害により顕在化したのだと学びました。そして、復興に際して憲法の視点が大切なのだと学びました。

2 日目は神戸の町でのリレートーク講演会、フィールドワークを行ないました。実際に被災された方や復興に向けて運動を続けてきた方々のお話を聞き、復興には地域のコミュニティを守り、地域の声を聞き、本当に地域が活性化するための提案を行なうことが必要であると感じました。

3 日目は2日間で学んだことを振り返り、求められる医療に対して、学生である今、そして医師になってできることは何かを考えました。自らの医師像をつどいを通して改めて考え、深めることができました。6年生企画では、「今を話す、現実を知る、未来を語る」をテーマに企画を行ないました。研修に対する不安、期待、イメージを率直に話し合い、ミニ講演を聴き、自分の将来像についてカードにメッセージを残しました。短時間ではありましたが、同期としてまた会おう、一緒に頑張っていこうと前向きな気持ちを持つことができました。

<今年のつどいを通して、そして未来へ>

復興支援とは、地域の声を無視してすばやい復興を押し付けるのではなく、時間をかけて被災地自らが復興しようと立ち上がっていくことを支援するべきものだと思います。

同じように、私たちは、患者さんの思いを無視して医療を押し付けるのではなく、患者さんを尊重し、協力しながら患者さん自身の生命力を引き出していけるような医師になります。

その決意を胸に、ここに宣言します。

「全国の医学生は、震災のことを忘れない。そしてそこから多くを学び、これからの医療、医師としての人生につなげていきます。」

2011年8月18日 滋賀県琵琶湖にて 第32回民医連の医療と研修を考える医学生のつどい参加者一同